高校の体育授業におけるラグビーの実践

ー「筑附式タッチラグビー」から逆算したラグビーの指導方法についてー

保健体育科　松本英樹

1．はじめに

本年度（2023 年 9 月～10 月）は、第 10 回のラグビーワールドカップがフランスで開催され、南アフリカが 4 回目の優勝を果たした。日本チームは予選リーグで 2 勝 2 敗となり、残念ながら前回（2019）の日本大会で残したベスト 8（決勝トーナメント）には進むことができなかった。今回のワールドカップ後、日本トップのラグビーリーグ「リーグワン」には、世界の最優秀選手たちが続々と参加しており、彼らのプレーを一目見ようと各地のスタジアムには多くのラグビーファンが集まっている。また、日本のラグビーでは根強い人気の早明戦が 100 周年を迎えたり、高校ラグビーの聖地「花園」でも決勝でのライバル校対決が大会を盛り上げた。

いま“日本ではラグビーというスポーツが熱い”のは事実だが、その熱をどれほどの人たちが感じているだろうか。ラグビーワールドカップの度に、日本代表の選手たちがテレビに出演して「ブームで終わらせることなくラグビー文化をもっと日本に根付かせたい」「ラグビーの競技人口を増やしたい」とアピールしている姿が見受けられる。授業者（私）は、自分自身が高校 3 年間どっぷりとラグビーにハマり、楕円球を追いかけていた。教員になってからも授業でラグビーを担当したり、部の顧問を受け持つこともあった。ラグビーの基本的な知識はある方だと思うが、限られた時間の中で初心者にラグビーを“わかる・できる”ように教えることは難しく、苦手意識を持っている。

授業者は、本校に赴任して 4 年目となる。コロナ禍では接触プレーが制限されていたこともあり、ラグビーの授業では多様なパスやキックなどの技術を中心に楕円球の特性を味わい、ラグビー部がウォーミングアップ等でおこなうようなシンプルなタッチラグビーでそれらの技術を活用する段階で終えていた。コロナ前（2019）までの本校では、鮫島元成・貴志泉・中塚義実らが 1978 年度から引き継ぎながらラグビーの授業を実践してきている（詳細は本校紀要 2014[1)] を参照）。先輩方からのバトンを受け継いで、ラグビーが熱い今だからこそ学び直し、生徒たちがラグビーについて“わかった・できた”と実感し、生涯にわたってラグビーに興味や関心を抱き続けるような授業を展開したいと思っている。

限られた授業時数の中で“何をどのように教えるのか”最初に選択した考え＝安全上の配慮は、「ゲームの中に、激しくなるコンタクトプレーは取り入れない（タックルだけでなくホールドも禁止）」「練習でもスクラムの押し合いはさせない（少人数で首を組み合うことも禁止）」である。ただし、タックルやスクラムがどのようなプレーであるのか“切り取ってでも体験はさせたい”と考えた。歩くスピードで組むモールやラック、リフトしないライン

アウト、多様なキックでのスペースへの攻め合い、ノックオンやスローフォワードなどの基本的な反則、そして、ラグビーの“肝”と言えるオフサイドのルールを入れ込んで、**「筑附式（松本 ver.）タッチラグビー」**を整理した。今回のラグビー単元は、このタッチラグビーのルールによるゲームから逆算した授業運営をおこなっている。

本校の体育授業でラグビーを学習するのは、2 年生の男子生徒である。本年度、このラグビー単元は、筑波大学附属小・中・高等学校の体育・保健体育科と筑波大学の体育科教育研究室が一緒に開催（筑波大学附属学校教育局と共催）している合同研究会（2023 年度のテーマ「ゴール型 －運動特性を学びながら、体育を通して“自由と規律”を考える－」）において高校の担当種目となっている。ラグビーの教材研究を進める中で、よく見聞きした言葉が「自由」と「規律（ディシプリン）」である。研究会当日（2024 年 1 月 27 日）の公開授業や研究協議を通して、高校の体育授業でラグビーを取り扱う価値を多様な校種の先生方と一緒に考える機会を得た。本研究紀要においては、普段のラグビー授業での取り組みと合同研究会での発表を含め、まとめることにした。

２.「筑附式（松本 ver.）タッチラグビー」の作成

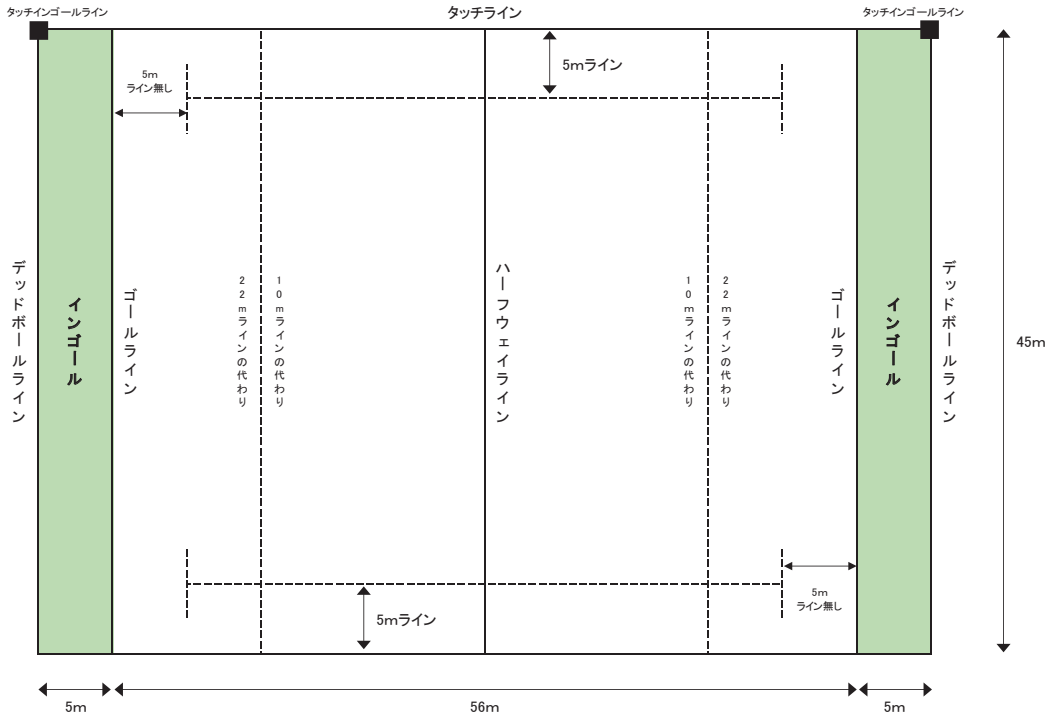
授業者（私）が、高校の体育授業で「球技」種目を取り扱う＝単元計画を立てる際に重視している点は、「生徒たちが生涯に渡ってスポーツに親しむために、その球技種目の完成形“本格的なゲーム”をイメージできるようになる」ことである。そして、ドリル練習のような予め型を決めた技術の反復練習に多くの時間を割くのではなく、「ゲーム中心に展開してゲームにおける個人やチームの課題を明らかにし、チーム練習に取り組み、チーム間で戦術を磨き合い、すべてのチーム（生徒）の力を互いに高めていける授業」である。そのために、最終的なゲームのルールは、本格的なゲーム（今回ではラグビー）をイメージできて、生徒が安全に取り組め、数回の授業で理解できる程度の量に修正しておく必要がある。

岩田[2)]は、『ゲームの修正』に関してソープら（1982）の言葉を引用し、「（教師には）戦術的内容を誇張する適切なゲーム修正を選択し、なおかつその修正をフル・ゲームに類似させるように取り組む能力（が求められる）」と指摘している。本年度のラグビールールは、「タッチラグビーを基本とし、タックルやスクラムなど危険を伴うプレーを省く」「競技区域のサイズや競技人数を適度に調節する」などフル・ゲームを縮小した。さらに、「モールやラインアウトなどを発生させ、意図的に人を一か所に集めて攻撃するスペースを生み出す」「ディフェンスのオフサイドラインを本来のルールより下げることで、計画的な攻撃を仕掛ける時間を作る」「キックを活用できるようにすることで、組織的な守備を崩したり（アンストラクチャーな状況を生み出したり）、エリアの回復を図れる」など、ラグビー本来の戦術を楽しむことができるようにフル・ゲームの一部を誇張して『ゲームの修正』をした。

これから数年をかけて、生徒たちと一緒に考えながら、より本格的なラグビーが体験できるような「筑附式タッチラグビー」のルールを作り上げていきたい。

【筑附式タッチラグビー ルール】 2023 年 11 月 28 日 配布

・競技区域 ※タッチライン＋タッチインゴールラインとデッドボールラインで囲まれたエリア



〔本校のグランド半面を想定したサイズ〕

・1 チームの出場人数は 7 人（＋控え 3 名程度でチームを構成）で、全員が前後半いずれかに出場すること
・1 試合の時間は前後半 6 分ずつ（計 12 分）で、ハーフタイムに 1 分以内の交代休憩を取る
　※試合開始の合図と試合時間の管理は教員がおこなう
・試合開始は中心部からドロップキックをおこない、10mラインをノーバウンドで越えない場合や競技区域からボールが出た場合（バウンドを含む）は、中央部から相手ボールの「タップ」で再開する
　※タップは地面に置かれたボールを軽く蹴り、両手で拾うこと
・試合開始や中央部からの再開の際には、相手チームは 10mラインより後方で待機する
・タックルの代わりにタッチを使う。4 回タッチされると攻守が交替になる【攻撃権 4 回ルール】
　※タッチは両手でボールキャリアの体に触れること。強く押したり飛びついてタッチするなどボールキャリアが転倒する可能性がある行為は反則とする
　※タッチの判断はセルフジャッジを基本とする
・タッチされた地点でボールを地面に置き（ダウンボールをして 1 回の攻撃権の終わりを示す）、他のプレイヤー（ハーフ役＝誰が担ってもよい）がボールを拾い、足を動かすと 2 回目の攻撃権が開始される
　※タッチした選手とタッチされた選手はハーフ以外のプレイヤーがボールを触るまでプレーできない
　※ハーフのプレイヤーが、そのままボールを拾い上げて動き、攻撃することもできる
　※相手インゴール前 5m以内でタッチされた際には、5m地点まで下がって次の攻撃権を開始する
・守備側のプレイヤーは、ボールのある密集から 2m以上、下がっていなければ、次の攻撃の守備に参加することができない。オフサイドポジションにいる場合、両手を挙げるなど不参加をアピールする
　※インゴール前の 5mは、オフサイドラインは 5m後ろ（ゴールラインがオフサイドライン）となる
・タッチされた地点でタッチされたプレイヤーがダウンボールをして、「ラック」宣言があり、攻撃側の他のプレイヤーが 1 人以上参加するとラック成立で、歩いて前進することができる。相手側プレイヤ

ーが攻撃側と同人数以上ラックに参加するまで移動することができる。（インゴール 5m前まで）
・タッチされた地点でタッチされたプレイヤーが後ろを振り向いて、「モール」と宣言があり、攻撃側の他のプレイヤーが 1 人以上参加するとモール成立で、歩いて前進することができる。相手側プレイヤーが攻撃側と同人数以上モールに参加するまで移動することができる。（インゴール 5m前まで）
・ラックやモールを組めるのは、4 回の攻撃権の内でいずれか 1 回だけとする
・ラックやモールは、1 度止まると（同人数になって止まると）、それ以上進むことはできない
・★反則時の試合再開の方法…ルールに示されていない場合は以下の 3 つに当てはめて判断する
　軽微な反則…ノックオン、スローフォワード、ラインアウトでのミス（ノットストレートなど）
　　反則された側がアドバンテージ※後述を利用する場合は、プレーを止めない
　　反則された側がプレーの停止を選択した場合は、タップで再開（攻撃権 1 回目）
　重たい反則…オフサイド、危険なタッチ（結果的に危険なタッチを含む）、意図的にボールを叩き落すなど
　　反則された側は以下の 2 つの攻撃権を選択することができる
　　①相手インゴール前 5mの攻撃しやすい位置からタップで攻撃（攻撃権 1 回目）
　　②反則地点からプレースキックをおこなう。味方 1 人がインゴールで待ちダイレクトキャッチすると成功となる。相手チームはボールが地面に落ちるまで動けない
　悪質な反則…イエローカード（最低限その試合は退場）／レッドカード（退場期間は個別に判断）
・得点は、インゴールへの確実なトライ＝7 点、ペナルティキック＝3 点
・ボールがタッチラインから出た場合は、ラインアウトで試合を再開する（インゴール 5m前まで）
　※ラインアウトは、タッチラインから 5mライン以上（5m以上）投げなければならない
　※ラインアウトに並ぶ人数は 2 人以上で、攻撃側が決めて守備側は人数を合わせなければならない
　※ラインアウトに並ぶプレイヤー以外は、ハーフ的な役割の 1 名を除き、10mずつ離れて立ち、次のタッチがおこるまで動けない。相手チームの 1 名のみが、5mラインより内側に立つことができる
・キックしたボールが直接タッチラインの外に出た場合、キックした側の自陣 10mラインから、相手側のボールでプレー再開となる。その際は、タップかラインアウトを選択することができる
・キックしたボールがバウンドした後にタッチラインの外に出た場合、相手側のボールでラインアウトをおこない再開する。ただし、キックしたボールがプレイヤーに触れてから外に出た場合、ボールに触れたプレイヤーと反対側のボールで、ラインアウトをおこない再開する
・キックしたボールが相手側のインゴールに入った場合、攻撃側がボールをおさえるとトライとなる守備側がボールをおさえると守備側のボールとなり中央部からタップで再開する
・キックしたボールが、インゴール（タッチインゴールラインとデッドボールライン）から出てしまった場合は、相手側のボールで、中央部からタップで再開する
・インゴールでタッチされた場合は、5m地点から相手ボールのタップで再開される（攻撃権 1 回目）
・★オフサイド…オフサイドポジションからプレーに参加すると「オフサイド」の反則となる
　①キックをした際に、キッカーよりも前方にいる攻撃側のプレイヤーはオフサイドポジションであり、キッカーに追い越されるか、次のタッチがおこるまでプレーに参加することができない
　②タッチをした際に、ダウンボールのある密集から 2m以上、下がっていない守備側のプレイヤーはオフサイドポジションであり、次のタッチがおこるまでプレーに参加することができない
　③モールやラックを形成する際に、味方の後方から参加しないプレイヤーはオフサイドとなる
　　モールやラックが動くとオフサイドラインも移動する。攻撃側は味方最後尾の足、守備側は味方最後尾の足から 2m下がった位置とする
・アドバンテージは、反則をされた側のチームに優位な状況が続いている場合は、反則をされた側の選択でプレーを止めずに継続することができる。反則をされた側が、プレーの継続を望まない場合は、直ぐにプレーを止めることで、マイボールでプレーを再開することができる。ただし、アドバンテージでプレーを継続した場合はアドバンテージオーバーとなり、次のミスは、ミスをした側に反則となる

３．授業の概要〔単元計画〕

（１）学習者と授業計画

本校は、前期と後期の二期制である。学習者は 2 年生男子であり、週 2 回（2 単位）で、1・2 組、3・4 組、5・6 組と 2 クラスずつ展開している。本校の体育は、種目ごとに担当者が入れ替わる方式で進めており、他学年の担当種目や持ち時間数との関係、研究会の日程等を考慮して、同一種目（同学年）であってもクラスよって実施時期が異なる。

・2023 年度はじめに計画した授業予定

後期前半（10月～12月）

回	月	日	曜日	1組・2組
1	10	17	火	ラグビー
2	10	20	金	ラグビー
3	10	24	火	ラグビー
4	10	27	金	ラグビー
5	10	31	火	ラグビー
6	11	7	火	ラグビー
7	11	10	金	ラグビー
8	11	14	火	ラグビー
9	11	17	金	ラグビー
10	11	28	火	ラグビー
11	12	1	金	ラグビー
12	12	5	火	ラグビー
13	12	8	金	ラグビー
14	12	12	火	ラグビー

後期後半（1月～2月）

回	月	日	曜日	3組・4組
1	12	11	月	ラグビー
2	1	11	木	ラグビー
3	1	15	月	ラグビー
4	1	18	木	ラグビー
5	1	22	月	ラグビー
6	1	25	木	ラグビー
	1	27	土	公開授業
7	1	29	月	ラグビー
8	2	1	木	ラグビー
9	2	5	月	ラグビー
10	2	8	木	ラグビー
11	2	19	月	ラグビー
12	2	22	木	ラグビー
13	2	26	月	ラグビー
14	2	29	木	ラグビー

後期後半（1月～2月）

回	月	日	曜日	5組・6組
1	12	11	月	ラグビー
2	1	11	木	ラグビー
3	1	15	月	ラグビー
4	1	18	木	ラグビー
5	1	22	月	ラグビー
6	1	25	木	ラグビー
7	1	29	月	ラグビー
8	2	1	木	ラグビー
9	2	5	月	ラグビー
10	2	8	木	ラグビー
11	2	19	月	ラグビー
12	2	22	木	ラグビー
13	2	26	月	ラグビー
14	2	29	木	ラグビー

※本紀要では、後期前半（10 月～12 月）の 2 年 1 組・2 組の普段の授業実践と、後期後半（1 月～2 月）の 2 年 3 組・4 組の合同研究会（公開授業）を中心に報告する。

（２）授業方針

① 授業目標 ： 本格的なラグビーの完成形（ゲーム）をイメージできるようになる
② 授業心得 ： 自分がミスをした時に、いち早くボールの所へ向かえるか？→まずは自分で
仲間のミスを、走って戻ってカバーすることができるか？ →仲間のことも
③ スローガン： ラグビーについて語れるようになる／ラグビーを通して語れるようになる
④ ゲーム目標： チームの得意とする攻撃や守備のパターン（決まりごと）を作って戦う

1 回目の授業では担当者が入れ替わるのでオリエンテーションをおこない、保健体育科が示す共通ルールと授業者が重視する学習規律について確認している。次項に授業の流れを載せるが、1～2 回目の授業では“とにかく楕円球にふれて・楽しむ”ような内容で構成し、ここで伝えるのは「②授業心得」のみである。「①授業目標」や「③スローガン」は、3 回目の座学※後述で“ラグビーの全体像”と結び付けながら説明するようにしている。「④ゲーム目標」を伝えるのは、単元終盤になってチーム編成やチーム練習が進んでからである。

（3）授業の流れ：2 年 1・2 組

回	月	日	曜日	テーマ	主な内容
1	10	17	火	楕円球（ラグビーボール）に慣れる①	・授業オリエンテーション ・パスとキックの基本 ・ラグビーの3大ルール
2	10	20	金	楕円球（ラグビーボール）に慣れる②	・パスとキックの基本 ・ランパス、キックとオフサイド ・ミスが起きた時の心得
3	10	24	火	座学「ラグビーを知る」	・ラグビーとの出会い ・ラグビーの基本ルール ・ラグビーW杯と日本ラグビーⅠ
4	10	27	金	ボールの争奪について知る モールとラック	・モールの基本 ・ラックの基本 ・オフサイドのルール
5	10	31	火	セットプレーについて知る スクラムとラインアウト	・スクラムの基本 ・ラインアウトの基本 ・オフサイドのルール
6	11	7	火	【雨天：体育館大アリーナ半面】 タックルとボールコントロール	・タックルの基本 ・ハンドリング（NZグリッド） ・ラグビーボールでバスケ
7	11	10	金	ボールの展開について知る 個人技と数的優位	・ステップの基本（1対1） ・数的優位をつくる（2対2） ・タッチラグビーの基本
8	11	14	火	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する①	・タッチとハーフからの球出し ・モールとラックの活用 ・スペースを意識した攻撃方法
-	11	17	金	【感染症による学級閉鎖】	（出席クラスは体つくり運動）
9	11	28	火	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する②	・ラグビーW杯と日本ラグビーⅡ ・タッチラグビーのルール整理 ・チーム編成とチーム練習
10	12	1	金	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する③	・競技エリア（コート図）の把握 ・チーム練習 ・練習試合（人数制限なし）
11	12	5	火	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する④	・チーム練習（チーム名の発表） ・練習試合（7人制） ・ルールと試合運営の確認
12	12	8	金	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する⑤	・チーム練習 ・公式試合（予選） ・セルフジャッジへの共通理解
（雨天）	12	12	火	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する⑥＋まとめ	・チーム練習 ・公式試合（予選＋決勝） ・授業まとめ＋課題の配布
13	12	12	火	【雨天：体育館大アリーナ半面】 アメフトを体験する～大学スポーツ～	・ラグビー授業まとめ＋課題の配布 ・アメフトの基本（パス） ・フォーメーションとタッチゲーム

※11 月 17 日はラグビーを実施できていないので、全 14 回→全 13 回の授業となった。

※12 月 12 日は雨天で体育館半面のため、ラグビーをせずにアメフト体験に変更した。

※4 チームによるリーグ戦（公式戦）は、12 月 8 日の 2 試合ずつしかできていない。

全 14 回の授業であれば、公式戦を 6 試合ずつ実施する予定だったので…非常に残念。

（4）授業内容　※一部の授業回を紹介する

①3 回目の授業：テーマ「ラグビーを知る」【座学】

早い段階でラグビーの全体像（イメージ）をつかむことができるように、3 回目の授業は天候に関係なく、教室での体育（座学）にしている。この授業では、2011・2015・2019 のラグビーW 杯の映像や「Jsports」[3)] のラグビー資料を活用させていただいた。

授業の内容（スライドの主な内容）

授業者（私）とラグビー ・「雪の早明戦」 ・ポジションと背番号 ※ポジション説明は別資料を配布して簡単に済ませる 1	ラグビーの基本事項 ・得点 ・プレーの原則 ※立ってままプレーする 寝たらボールを手放す 2	・タックル ・ラック ・モール ※倒れたらボールを手放す ラックとモールの基礎知識 3
・スローフォワード ・ノックオン ・スクラム ※軽い反則はスクラムで再開 スクラム説明は 2015 動画 4	・オフサイドとキック ・オフサイドライン ・ラインアウト ※「オフサイド」は授業の“肝” ラインアウトの基礎知識 5	2011 ラグビーW 杯決勝 ・NZ　vs　フランス ・オールブラックスハカ ※試合前の高揚感と規律 NZ 大会決勝での NZ ハカ 6
2011 ラグビーW 杯決勝 ・試合を見ながら説明 ・理想のキャプテン ★15 分の映像で一通りプレーを見て復習（イメージづくり） 7	2015 ラグビーW 杯 ・日本　vs　南アフリカ ・「ブライトンの奇跡」 ※日本ラグビー界における歴史的な試合（シーン） 8	2015 ラグビーW 杯 ・「ブライトンの奇跡」を分析 ・エディジョーンズ HC ※最後のトライに至るまでの各選手の動き（規律と自由） 9
2019 ラグビーW 杯 ・日本はベスト8の大健闘 ・「一生に一度」の日本大会 ※授業者は花園ラグビー場の近くに勤務「高校生と花園」 10	2023 ラグビーW 杯 ・残すは決勝と 3 位決定戦 ・ぜひ観よう！ ※9回目授業で説明するため簡単な現状報告のみ 11	本授業のポイント ・授業目標やスローガン ・評価の観点 ※「スローガン」の具体例を示す。次回授業の予告など 12

※9 回目の授業では、最初の 20 分間を座学にしている。2023 ラグビーW 杯の映像や日本のラグビーリーグを紹介、「筑附式タッチラグビー」のルールを説明（ルールブック配布）、リーグ戦に向けたチーム編成とメンバー登録について（登録用紙を配布）。〈巻末資料〉

②5 回目の授業：テーマ「セットプレーについて知る」【安全上の配慮】

「本格的なラグビーの完成形（ゲーム）をイメージできるような授業」をめざして単元計画を立てているが、相手と接触するコンタクトプレー（タックルなど）はゲームの中に取り入れないこととした。本校のこれまでのラグビー授業（鮫島・貴志・中塚）で取り入れてきた「相手をつかむ（ホールド）プレー」も禁止とした。ただし、タックルがどのようなプレーで、どのようなルール下でおこなわれているのかについては体験をしながら理解させたいため、ゲームから切り離した“切り取った体験”として授業に組み込むことにした。スクラムについても、普段トレーニングをしていない首に前後から負荷をかけることは危険であると判断し、相手と向かい合って組むことはしない（休み時間などに自分たちだけで試すようなことも絶対にしない）ように注意しながら、組み方のみ指導した。

5 回目の授業は、「スクラムやラインアウトなどセットプレーについて知る」をテーマに授業を組み立てた。グランドを広く使ってランニングパスをした後、スクラムはグランドの隅にある人工芝エリアに移動して説明し、再びグランドに戻ってきてラインアウトを体験することになる。学習内容が多くなるため、予めグランドにラインアウト用の白線（目印線）を引いておいたり、マーカーやボールを移動させておくなど“授業時間を少しでも稼ぐための段取り”が、この回の授業では重要になると感じた。

1列目→2列目→3列目とスクラムを「プロップは～」など役割を解説しながら組み上げる。※無理に参加させない

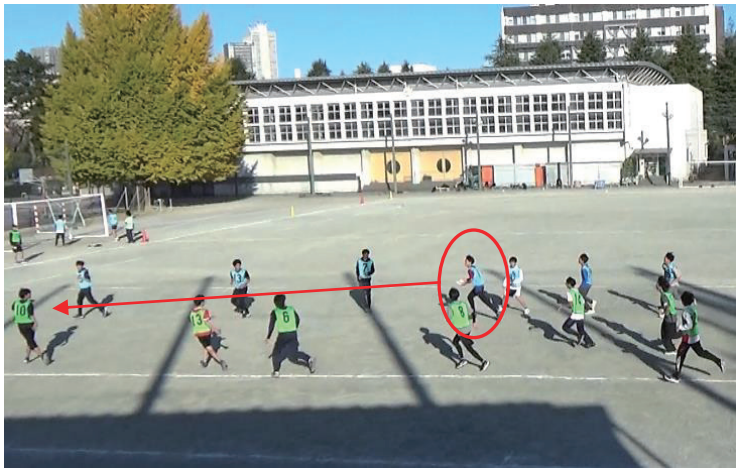
2チームが向かい合い、「クラウチ、バインド、セット」の掛け声を教員が入れるだけで雰囲気は十分に出てくる

【タックル体験】

1・2 組では、6 回目の授業（11 月 7 日）が雨天でグランドが使用できず、体育館半面での活動となったため、ラグビー同好会やバスケ部にタックルバッグを借りて「タックル体験」を実施した。切り取った体験であるが「ディフェンスラインを作って」や「1 対 1 で」などゲーム状況をイメージできるようにも工夫した。また、肩より上への「ハイタックル」は重い反則で退場につながることがあり、混沌とした状況下で自分をコントロールする難しさ＝「ラグビーに求められる規律」についてもタックルと絡めて説明した。

③12 回目の授業：「タッチラグビーを通してラグビーを理解する」【ゲーム】

本来であれば 14 回目の授業におけるゲームを観察・分析したかったが、感染症による学級閉鎖と雨天による授業変更で、12 回目の授業が最後のゲームとなってしまった。「筑附式タッチラグビー」のルールを各授業回に分散するなど、逆算した授業運営をおこなってきた。最終的なゲームにおける生徒の様子を、写真に説明を加える形で報告する。

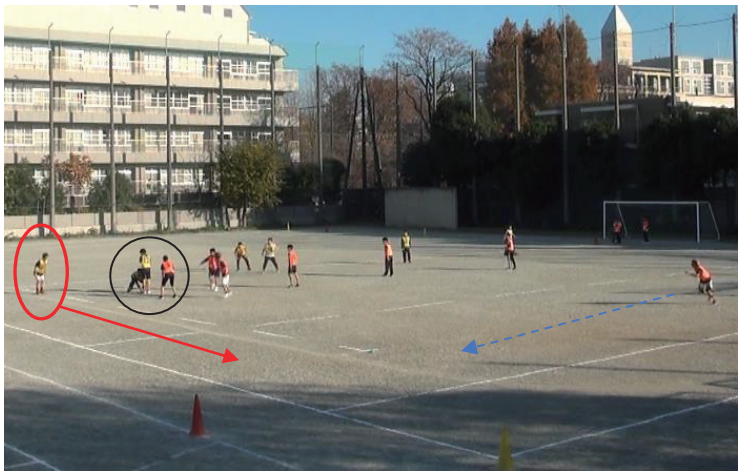


【よくあるプレー】

ボールを持ったらパスを考えずに、自分の好きなスペースを好きなだけ走って“横へ横へ流れていく”プレー。行き場が無くなりタッチされる寸前にパスをするが、パスをもらった生徒もスペースは無い。
これも OK だが、どこかで“縦に切り込み”相手2人を引き付けると、次の攻撃スペースが生まれる。

【2対1で抜き去ったプレー】

緑チームの攻撃で、写真の左側からボールが回ってきて、タッチライン近くの外側スペースで2対1の状態になった。ボールを持っている生徒はすぐにパスを外側に投げずに、一度縦に（前に）真っすぐ走るしぐさをみせて、水色チームのディフェンスを引き付けてから外側にパスした。上手く抜き去り、大きく前進した。

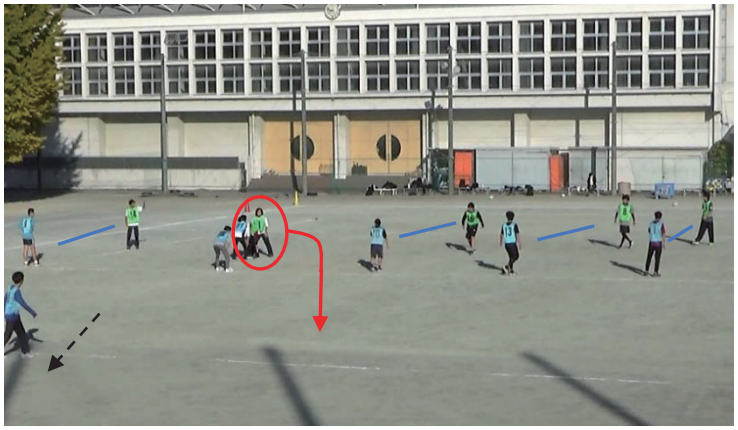


【サイドを突くプレー①】

黄チームの攻撃で、（黒で囲った）ボールをタップした位置から写真右側へ攻撃するように黄色チームは並んでいるが、1人だけ逆サイドに立ち、オレンジチームのいないスペースを狙ってボールをもらう。それに気がついたオレンジ色チームのフルバックは、急いで左側のスペースを埋めるために走り出している。

【キックを活用するプレー】

オレンジ色チームが建物側に向かって攻撃をしている。緑チームのディフェンスが横一列にきれいに並び、走っても攻撃するスペースが見当たらない。そこで、オレンジ色チームの生徒は、緑チームのディフェンスラインの後ろスペースにボールをキックして落とした。そこに味方が走り込む。



【サイドを突くプレー②】

緑チームが攻撃をしているが水色チームのマンツーマンディフェンが効いている。自陣でミスすると相手ボールになる危険があり、「キックで敵陣にボールを蹴り込め～」の声が出る。それを聴き水色チームは、1人が後ろに下がった。そこでハーフはボールを持ちサイドのスペースを突いた。

【モールで人を集めるプレー】

筑附式タッチラグビーでは、歩くスピードでのモールとラックが認められており、同人数が揃うまでモールやラックは進み続けることができる。攻撃側はモールに人数を集めることで守備側の人数もそこに集中させることができる。そして広いスペースを作り、走力のある生徒で勝負する。

【ラインアウトからのプレー】

ラインアウトに参加する人数は、ボールを投げ入れる攻撃側の人数に守備側は合わせなければならない。ゲーム数が少ないためサインプレーまで考える余裕は無かったが、「近く or 遠くへ投げる」「人を固める or 散らす」など、ボールを投入する前に相談している場面が見られた。

４．生徒による授業のふりかえり〔事後アンケートより〕

本校の体育科では、実施種目ごとに、その単元の最後に「種目別課題」を求めている。ラグビー単元では、「授業に関する事後アンケート」を含む形で実施した。2023 年 12 月 8 日の授業内で説明して配布し 12 月 22 日に回収した。2 年 1・2 組の男子生徒 39 名の回答について以下にまとめる。

（1）本授業で学習するまでの「ラグビー体験」について

ラグビー同好会で １年以上活動している	ラグビーボールを 数回さわった程度	体験したことがない
4名	4名	31名

本授業の学習者が入学してきた 2022 年度にラグビー同好会が立ち上がり、現 2 年生では 10 名程度の生徒が熱心に活動を続けている。顧問は文京ラグビースクールで副理事長を務めている本校数学科の山田研也教諭（ラグビー協会公認 A 級コーチ）である。ラグビーを継続的に学習している生徒が授業に与える影響は大きく、リーグ戦に向けた練習などではリーダーとしてチーム作りに貢献している。

（2）本授業で学習するまでの「ラグビーの知識」について

すごく 知っていた	知っていた	どちらかと言えば 知っていた	どちらかと言えば 知らなかった	知らなかった	まったく 知らなかった
1名	6名	10名	17名	2名	3名

本授業までにラグビーについて「(少しでも）知っていた」と回答した生徒が 4 割程度（17 名）いた。3 回目の授業（座学）で説明した「ブライトンの奇跡（2015)」を知っていた生徒は多く、やはり、その次の日本で開催されたラグビーW 杯（2019）や本年度のラグビーW 杯（2023）における日本チームの活躍やプロモーション活動が影響を与えているのではないかと思われる。

（3）本授業を終えて「ラグビーというスポーツ」について

すごく好き	好き	どちらかと言えば 好き	どちらかと言えば 嫌い	嫌い	すごく嫌い
6名	21名	11名	1名	0名	0名

【ラグビーが好き】に回答した生徒のコメント

- 父にルールを教えてもらい授業前からラグビーが好きだったが、授業を通して様々な戦略や1人1人の役割についてより詳しく知ることができたので、ラグビーをより好きになった
- 今回行ったのはタッチラグビーだったが、どんな人でもその人の特徴にあった役割が与えられていたので、すごく面白かった
- 自分は球技が苦手だが、ラグビーはボールを持つだけでなく、密集に参加して進んだり、キックで飛ばしたり、投げる以外の選択肢があり、試合に楽しく参加できた

・観るのは以前から好きで、するのは疲れそうだと思っていたが、静と動がよく分かれたスポーツで、意外と自分のペースでできた
・ルールを知ったり、プレーを実際にする前は、ただの力比べくらいに思っていたが、授業を受けていく内に、このスポーツは力だけでなく頭とスピードも同じくらい大切だと気づき、ラグビーの奥深さを知った
・はじめは、ただぶつかり合うスポーツだと思っていたが、学んでいくにつれてオフサイドのルールなど深いスポーツだと感じるようになった
・今まではテレビで「見る」ラグビーを楽しんでいたが（ワールドカップなど）、今回のタッチラグビーで、テレビで見ていた戦術に近いものを自分たちで考えたりすることができて、実際に成功することができた
・ラグビーはコート全てをみないとだめで、数的有利を作ったり、空いているスペースに走らないといといけないなども考えるのが楽しい
・タックルなど危険なイメージが強かったが、戦略を立てたり、頭脳を使うスポーツであるとわかり、奥が深いと感じた
・授業で学習する前は危ないスポーツというイメージが強く好きではなかったが、ルールが厳格で、個性的なところに魅力を感じた。ただ、下手にやると危険なのは確か。また、トライは快感で、気持ちがよかった
・球技のほとんどが好きなのでラグビーも面白かった。「すごく好き」に回答しなかった理由は、止まってしまう時間がサッカーに比べて少し多いと思ったからだ
・ディフェンスではみんなが横一列になって戦うため、チームの一体感をより感じることができた

【ラグビーが嫌い】に回答したコメント（1 名）

・兄が高校時代にラグビーで大ケガをしているので、本気のラグビーには恐怖しかない

生徒のコメントをみると、「ラグビーはそれぞれに役割があり、みんながゲームに参加している実感を得ることができる」「ボールを持って走るだけでなく、キックやモールを組むなど様々なプレーの選択肢がある」「スペースを考えた戦術を立て、そこに攻撃することがそれほど難しくない」「オフサイドのルールなどに奥深さを感じることができる」「体力的に辛いイメージがあったが、意外とプレーが止まる時間が多くチームで相談することができる」「危険なイメージがあったが、ルールが整理されていて安心してプレーすることができる」などが複数出ていた。いずれも、ラグビーの特長を感じ取ることができている意見であると評価している。

（4）本授業に対する「自分の取り組み姿勢」について

すごく積極的	積極的	どちらかと言えば積極的	どちらかと言えば消極的	消極的	すごく消極的
9名	19名	10名	0名	1名	0名

本校生徒に関して教科内で意見交換をすると、「体育授業の意味や価値を理解し、どの種目においても積極的に参加できている」と高く評価する声が聞かれる。本授業においても積極的に取り組んでいる生徒が多いと授業者としては感じていたので、「どちらかと言えば積極的」の回答が 10 名もいたことに驚いている。その理由はわからないが、授業者としては「積極的」と評価している生徒が多いので、フィードバックしていきたい。今後の授業運営（アンケート等）で自己評価を求める際は、より具体的に観点を伝える必要があると感じた。

（５）本授業における「教員の授業運営や内容」について

すごく満足している	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらかと言えば不満である	不満である	すごく不満である
12名	24名	3名	0名	0名	0名

【満足している】側に回答した生徒のコメント

- 筑附特有のラグビーは、タッチされたらボールを離さなければならないというルールによって体格の良い人が“無双する”ことがなく、その上でラグビーの楽しみを損なうことも無いように工夫されていてよかった。また、練習もバラエティにとんでいてよかった
- ラグビーというスポーツを学びながら、危ない場面もなく最大限楽しむことができた。これはひとえに先生の企画してくれたタッチラグビーの性質によるものだと思う
- あまりルールを知らない状態から始まったが、丁寧にステップを踏みながら教えてくれたり、一つ一つの注意事項にもしっかりと理由をつけて伝えてくれたので、理解してスムーズに参加することができた
- 全授業を通してラグビーの基本的ルールからチーム戦略などの発展的な事項について学べて良かった。先生のラグビーに対する愛が伝わって来たので毎回楽しく授業を受けることができた
- タッチラグビーの試合では行わないスクラムなども一通り体験させてもらい、終始先生のラグビー愛を感じる楽しい授業だった
- 特別ルールの下で安全にラグビーをプレーでき、さらにスクラムを実際に組んでみるなどラグビーの要素を体験できた。また、普段からラグビーやその他のゴール型の種目をほとんどやったことが無い自分にとっては作戦を考えるヒントが少なくて難しかったが、ラグビーの試合を視聴して見方を学んだことで、自分で作戦を調べやすかった
- セルフジャッジは雰囲気が悪くなることもあったが、結果的にチーム全員で話し合って割と公正なジャッジをすることができた
- リーグ戦は楽しかったので、天候面で仕方なくはあったものの最後までやり切れなかったのが残念だった

本授業を終えて、「満足している」と回答した生徒が多かったことに授業者としては少しホッとしている。本授業のスローガンを『ラグビーについて語れるようになる／ラグビーを通して語れるようになる』としていたので、授業者自身が“わかりやすく語る”ように努めたつもりであり、その工夫が生徒たちに伝わったのではないかと思っている。また、「筑附式（松本 ver.）タッチラグビー」から逆算した授業運営に対しても、生徒たちは、「ラグビーを怖いと感じることなく安心して取り組むことができた」「本格的なラグビーを感じることもできた」と一定の評価をしてくれていると受け止めている。

今回のラグビー単元では、全 14 回の授業計画で 2 回は予備日（調整可能日）としていた。雨天で 6 回目と 13 回目の授業が体育館半面での活動となり、調整が必要になった。さらに、感染症による学級閉鎖で 1 回分の授業が無くなってしまった。計 3 回の授業が変更になったことで、リーグ戦（公式戦）を各チーム 6 試合ずつおこなう予定が、2 試合ずつになってしまった。10 回目と 11 回目の授業で、練習試合を丁寧に運営した（教員が途中でゲームを止めて説明したり、セルフジャッジの例を示した）からこそ、ルールを理解し、戦術が深まったとも言えるが、もう少しリーグ戦の緊張した雰囲気を味合わせてあげたかった（昼休みに練習をしていたチームもあった）。そのあたりの改善が生徒の満足度をさらに上げるポイントでもあり、次年度に向けた課題の 1 つと考えている。

（6）本授業の「筑附式タッチラグビー」について

とても理解している	理解している	どちらかと言えば理解している	どちらかと言えば理解していない	理解していない	まったく理解していない
7名	20名	10名	2名	0名	0名

タッチラグビーのルールを作成する際に「A4 サイズ 2 枚以内には納めたい」との思いがあった。その量の中に、初めてラグビーを体験する生徒でも映像で観たようなラグビーを感じ取ることができるように、授業者が考える“これぞラグビー”という“こだわりの部分”を残しながら、修正を加えて詰め込んでいった。このオリジナルのルールは、前出の山田教諭やラグビーを専門とする大学の先生などにもアドバイスをいただいて『2023 年度版』が完成した。既に考え直さなければならない部分も出てきているが、本年度の粗削りで複雑なルールを、これだけの生徒たちが「理解している」と回答してくれたことは嬉しく思っている。しかし、実際にゲームを観察した限りでは、もっと多くの「理解できていない」生徒がいると思うのだが…。

（7）本授業のゲームにおける目標：
「チームの得意とする攻撃や守備のパターン（決まりごと）を作って戦う」について

決めることができた	決めることができなかった	わからない
38名	0名	1名

↓（決めることができて、それを守ることができたか？）

守ることができた	守ることができなかった	わからない
31名	5名	3名

授業者は、ラグビーは「自由な発想でオフェンスし、規律を守りディフェンスする」ことでゲームをより深く楽しむことができると考えている。そのため、リーグ戦に向けてはチームメンバーを固定し、チーム練習の時間を確保して、自由な発想で戦術を練り上げていくように指示している。本授業では、ほぼ全員が（全チームが）、チームとしての戦い方を決めることができていた。また、多くの生徒が、その決まりごとを「守ることができた」と回答している。「守ることができなかった」と回答した生徒は、その理由として、**「ディフェンスラインを頭では理解しているが、目の前の相手の動きに合わせて体が動いてしまった」「ラグビーの攻守が入れ替わる急な展開に、理解が追いつかない時があった」「サインを忘れてボールを夢中で追いかけてしまうことがあった」「サインを決めていたがミスが出て、サインプレーを実行するまではいかなかった」**など述べている。

ラグビーでは規律を守れないと相手にペナルティが与えられ、敗因になることがある。ラグビーを通して少しでも「規律」について考えてほしいと思っている。

（８）「筑附式タッチラグビー」における効果的な戦い方について

以下に、生徒が考える筑附式タッチラグビーの効果的な戦い方を紹介する。

【 攻撃面 】

・横に逃げてばかりいるのではなく、ボールを持ったらまずは自分が前に進んで敵陣への道を切り開いていく。その後にモールをしかける。ハーフの球出し（リスタート）を素早くすることが大切

・攻撃の回数が限られているので、ボールを持った人はときにかく前へ進むことを意識する。また、モールを組むことによってスペースや数的優位な状況を作り出す。そして、キックの得意な人や走るのが得意な人など、各々に合った役割やポジションを決め、各自が与えられた役割を全うする

・どうしてもウイングの手が空いてしまうので、とにかく飛ばしパスをしてでも、まずはウイングまで素早くボールを回す。基本は２～３回進んだら、相手の守備ラインを乱すためにキックをする

・タッチされる前に次のハーフ役が近づいておくことが大切。大きく左右にボールを回して相手を揺さぶった後、フルバックが後ろから前に上がってきたら、ディフェンスラインの裏や相手ゴールの角に向けてキックをする。停滞した状況なら、ハーフは自分で球を持ち出して相手をオフサイドにする

・タッチされてプレーが切れたら２人だけバックスを残してあとのメンバーでモールを組む。焦らずゆっくり休憩？しながらモールで進み、相手の人数がそろってモールが止まったところでモールを解消してボールを出す。意外と相手は死角となる狭い側（ブラインドサイド）からの攻撃に油断していることが多いので、たまには狭いところを突く

・キックで相手側にボールを飛ばし、できればインゴールにぴったりと飛ばし、陣地を大きく回復させることができると効果的（うまくいけばトライできる）。失敗してボールが飛びすぎて出てしまっても中央部からの再開になるのでリスクは小さい

・今回のタッチラグビーではキックでボールを前に進める場面が多かったが、それが警戒されてキックする選手に守備がつくことがあった。そこで、キックを効果的に使う方法として、キックする選手の後ろ（オンサイドの位置）に多くの味方を集めて、キックと同時に多い人数で一気に攻め上がることができれば、よりトライに近づける攻撃になる

【 守備面 】

・攻撃側が数的優位な状況を作り出せないように「なるべく横一列」に広がる。また、相手を１対１でマークし、相手がスペースのある状態でパスをもらえないように詰める。そして、守備側の１人は後ろに下がって、相手のキックが飛んで来た場合の対応に備えるなど、フルバックのような役割を担う

・相手の表面の動きに気を取られて一ヶ所に集まり過ぎるのを防ぐ。味方同士で相手の誰をマークしているかを伝えあい、マーク漏れを防ぐ

・対面の相手を注視し、ボールを持った人が横移動してきたら、対面の相手を切り替える。また、モールを仕掛けられたら、素早く人数を合わせて、ボールが出たら素早く解体する

・チームみんなでラインを作り、その形を崩さないことで、広い穴を作らないことや、声を出して、誰をマークしているか、スイッチするかを伝えあう

・フィールドが広い関係上、一度抜かれると一気にトライされるリスクがあるので、相手の細やかな動きに釣られずにある程度決めておいた幅で、チームで横一列のディフェンスラインを維持して一体となって守備をすることが大事だと思った

・ディフェンスラインをそろえる。１人は後ろでキックの対策をする。相手が横に走っても無理に追いかけない。モールを組まれたら、相手のモールに入っていない人をよく見てマークする（何も考えずに全員がモールに加わらない）

・１人がキック警戒のすごく後ろに立つフルバック、もう１人は走力のある人がディフェンスラインの１ｍほど後ろに立つ第２のフルバック。サイド際でブラインドサイドを抜かれることが多いので、ポイントの脇をまずカバーする。相手に多い攻撃手法として、横に１人がおもいきり流れることで無理やり外を余らせようという作戦があるが、それは２人のフルバックがケアする

・守備が一直線に並ぶことを大切にして、間から抜かれないようにする。無理にタッチに行かない方がよいと感じた。キックの方は無理に守備のラインを下げずにフルバックに任せてもよいと思った

自分たちや相手チームの戦術をふり返り、多くの生徒が“的を射た”回答をしていると感じている。これらの「戦い方・お宝マニュアル！？」を次年度の後輩たちに引き継ぐことで、戦術を理解する時間が大幅に短縮され、さらなる工夫が生まれると期待している。

（8）ラグビーというスポーツについて考える －「ラグビーは自由なスポーツか？」－

とても そう思う	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	まったく そう思わない
4名	16名	10名	8名	1名	0名

「ラグビーは自由なスポーツ」と表現されることが多い。ラグビー界における“カリスマ”指導者の 1 人である清宮克幸氏（現日本ラグビーフットボール協会副会長）は、ラグビーを始めようとする人たちに向けた指導書[4]の最初のページで「ラグビーほど自由なスポーツはない。ボールを持ったまま全速力で、どこまでも走ることができるのだ。この爽快感は何ものにも代えがたい。手も足も使えるし、向かってくる相手を…」と記している。また、指導者として大学日本一に 10 度輝き、日本代表にも多くの選手を送り出している岩出雅之氏（帝京大学教授）は、基本から発展までのドリルを記した指導書[5]の最初にページに「自由の考え方～ラグビーを楽しむためのフィロソフィー」と題し、「“何でも有り＝自由”ではなく、より楽しくプレーするために“自分たちで選択する＝自由”という意味が潜んでいます。このような“自由”の考え方は、ラグビーを楽しくプレーするうえで、とても重要な要素となります。」述べ、この文章に続けてチームで「規律」を守ることの重要性を説明している。

本校の校是は「自主・自立・自由」である。特に、“自由”という言葉を大切にしている生徒が多いと感じている。そこで、ラグビーの自由についても考える機会を作ってみた。

【生徒のコメント】※多様な回答の中から一部を抜粋している

ルールはたくさんあるが、ポジションがかなり流動的なため多種多様な作戦が立てられるので、ラグビーはかなり自由なスポーツだと思う

ボールを持って走れるのは、かなり制限がゆるい。反面、守備の時は自由に走る相手を捕まえることがチームメンバーとしての義務となってくる

戦術の幅広さに関して言えばとても自由だと思うが、それはメンバーがチームの一員としてそれに従い行動するのが前提となる

攻守の切り替えやトライまでの過程が豊富だと実感した。実際のラグビーはタックルやスクラム、キックでの得点もあるため、さらに自由度は増す

ラグビーはチームスポーツの側面が強いので、個人が自由にプレーするというのは少し違うと思うが、チーム戦術では自由度が高い

アドバンテージをみたりする点は、自由度が高いと思うが、想像していたよりもルールが細かく、他のスポーツと比べてそこまで自由度は高くない

オフサイドルールによる制限はあっても、チームで合図をすれば自由に動ける。ボールの不規則な跳ね方や頭脳プレーも含め、無限の可能性がある

様々なプレーが許される分、様々なスキルを身につける必要がある。私はキックが極端に苦手なため不自由を感じる場面が多かった

「自由なスポーツ」よりも「自由になった方が勝つスポーツ」だと思う。モールで縛ったり、オフサイドを誘ったり、相手の自由を奪うことで勝てると感じた

ラインアウトのこぼれ球を拾い、自由に走って一気にトライへ

（９）本授業のスローガン：－「ラグビーについて語る／ラグビーを通して語る」－

質問項目の中に、『本授業で学んだ内容に、ラグビーについて各自が調べた内容を加えた上で、「あなたがラグビーを語る」としたら、どのような内容を語りますか？』を入れた。本校生徒の多様な回答はどれも興味深いが、ここでは回答イメージがつかめるように一人だけの紹介にとどめておく。（今後編集して「筑附ラグビーの語り部たち」企画につなげる予定）

【＋αで調べる】

ラグビー授業のリーグ戦ではチーム名を決めたが、その際に自分たちの理想とするプレースタイルや現状の強みを表現しようと考えた。よって、チーム名にはそのチームの特長が表れていると考え、各国代表のラグビーチームの愛称とプレースタイルの特長をまとめることにした。〔…省略…〕これらのことから、プレースタイルにちなんだチーム名以外にも、その国を代表する生き物や色を使っていることがわかった。〈出典は〇〇〉

↓

【そしてラグビーを語る】

ラグビーは、ボールを投げたり蹴ったり持って走ったりといった自由が認められているからこそ、各国がそれぞれの得意な部分を活かした戦い方をしている。例えば、体格の小ささを活かしたスタイルやランニングスタイル、全員で点を取りに行くようなスタイルなどである。これらの学びから、高校入学時の自分、あるいは校則の厳しい中学校から本校に来た新入生に、「自由ということは、それまでのルールに頼るのではなく、自分のできること、良いところを伸ばしていくことができる。（ラグビーチームの例を通して）これからは自分の特徴を表現していくべきだ」と伝えたい。このように、ラグビーは、自由な人のあり方を語れるスポーツでもある。

（１０）本授業「ラグビー」を学習した感想・意見（改善点）・質問など

生徒からの感想はどれも貴重で有り難い。ラグビー授業のねらいを的確に捉えている（理解できている）と思われるコメントが多く、授業者を喜ばせてくれているが、ここでは改善点のヒントを得た記述を中心に紹介しておく。

・チームのラグビー経験者に教えてもらって考えることがあった。チームの戦術はキックに頼りがちになってしまい、安定したプレーができなかったという反省もあるため、もう少し基本的な戦術について解説していただきたかった。

・ラグビーの基本的な戦い方をもう少し丁寧に教えていただければ、ラグビー経験者がチームにいなくても、より高度な戦いができると思います。

・生徒たちの試合の映像を見てセルフジャッジの審判講習をしたり、オフサイドゾーンでは両手を挙げて不参加のアピールを徹底する機会を一度はつくるなど、授業の工夫ができるかもしれない。

・ノックオンやスローフォワードなどの軽い反則の時に、押し合い無しの 3 人ずつのスクラムを組むと一か所に人が集まるので、その他の場所に広いスペースができて、攻撃側に大きなチャンスが生まれると思う。

・自分は、ラグビーは観るのが楽しいスポーツで、タックルなど人とぶつかるので、するのは正直なところ怖いと思っていた。しかし、実際に接触の少ないタッチラグビーをすることで、ラグビーに対する不安が和らぎ、思っていた以上に楽しかった。自分はスピードを活かしてラインを上げ、積極的に相手にプレッシャーをかけたりしてチームに貢献することができたと思う。良い雰囲気で試合をして勝てて、ラグビーを楽しむことができた。

・以前からラグビーに興味があり試合を観に行ったこともあったが、その時には放送される反則の意味などがわからず友達に解説してもらっていた。今回のラグビー単元を通して自分も人に説明できるようになったので、今後も観戦してみたいと思った。

５．筑波大学附属小・中・高等学校 体育・保健体育科 合同研究会（第 19 回）

テーマ :「ゴール型 - 運動特性を学びながら、体育を通して“自由と規律”を考える - 」

（１）「合同研究会（2023 年 1 月 27 日）」について

筑波大学大塚地区にある附属小・中・高等学校では、大学を含めた「四校研」を教科別に組織している。体育・保健体育科では 2005（平成 17）年度より、共通する領域・種目を設定し「小・中・高の授業の一貫性」をテーマに合同研究会を開催してきた。しかし、2020（令和 2）年度からの 3 年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公開授業ができずオンラインでの研究会となっていた。

本年度は、4 年ぶりに対面での研究会を開催することになった。今回は、すべての校種において、ゴール型の領域（小学校はアルティメット、中学校はサッカー、高校はラグビー）を展開することにし、それぞれの校種において学ばせる内容の共通点や相違点について、授業中の児童や生徒たちの姿を通して考えることにした。また、体育授業から何を学ぶのかを「自由と規律」の視点でも検討することにした。「自由と規律」は、四校研の体育・保健体育科が大切にしてきた基本的な視点であり、学校における体育授業の価値を改めて考える機会になると勘案したからである。〈筑波大学附属学校教育局 HP[6]〉を参照）

（２）高等学校・体育「公開授業」について

本年度の高校は、筆者（私）が「ラグビー」種目で担当することになった。公開授業での学習者は、2 年 3・4 組の男子生徒である。ここまで報告してきた 2 年 1・2 組の男子生徒のラグビー単元は 2023 年 10 月 17 日～12 月 12 日で終わり、2 年 3・4 組と 5・6 組の授業を 2023 年 12 月 11 日から 2024 年 2 月 29 日の予定〈全 14 回〉で実施してきている。

公開授業は 7 回目の授業にあたり、この日の授業テーマは「ボールの展開について知る - 個人技と数的優位 - 」である。最終的なゲーム（筑附式タッチラグビー）の局面を想定しながら「1 対 1 における攻防や数的優位な状況を作ってトライを取る方法」「ディフェンスラインを作る必要性」などを学習して、さらに、ラグビーにおける自由や規律について考えることができるように内容を構成している。

次項以降に、2 年 3・4 組男子のラグビー単元「授業の流れ」と「当日の指導案」を載せる。授業の流れ（計画表）は 1・2 組と同じだが、今回の研究会テーマである「自由と規律」をどの授業内容と関連づけることができるのか考え、計画表の右欄に記している。さらに、「自由と規律」だけでなく、ラグビー単元を通して「どのような力を刺激することができるのか」(「力を育む」とまでは言い難い) を考えて、他の授業回についても右欄に記してみた。

新しく改訂された生徒指導提要（令和 4 年 12 月）によると、生徒の主体性を育むような「積極的な生徒指導」が強調され、これからの生徒指導の基本的な方向性の一つに『学習指導と生徒指導の一体化』が挙げられている[7)]。提要の趣旨とは少しずれているのかも知れないが、これまでの“経験や勘”に頼るのではなく、“意識して授業の中に埋め込んでいく”ような授業を引き続き探究していきたいと考えている。

① 授業の流れ：2 年 3・4 組

回	月	日	曜日	テーマ	主な内容	ラグビーを通して伝えたいこと
1	12	11	月	楕円球（ラグビーボール）に慣れる①	・授業オリエンテーション ・パスとキックの基本 ・ラグビーの3大ルール	（全授業共通の学習規律）
2	1	11	木	楕円球（ラグビーボール）に慣れる②	・パスとキックの基本 ・ランパス、キックとオフサイド ・ミスが起きた時の心得	責任とサポート 偶然と努力
3	1	15	月	座学「ラグビーを知る」	・ラグビーとの出会い ・ラグビーの基本ルール ・ラグビーW杯と日本ラグビー①	リーダーとフォロワー 自主や自立
4	1	18	木	ボールの争奪について知る モールとラック	・モールの基本 ・ラックの基本 ・オフサイドのルール	興奮と冷静 情熱と規律
5	1	22	月	セットプレーについて知る スクラムとラインアウト	・スクラムの基本 ・ラインアウトの基本 ・オフサイドのルール	適材適所（個性）
6	1	25	木	コンタクトプレーについて知る タックルとボールコントロール	・タックルの基本 ・ハンドリング（グリッドパス） ・タッチラグビーの基本	恐怖と自信 責任
7	1	27	土	ボールの展開について知る 個人技と数的優位	・トライの取り方（1対1） ・数的優位を作る（2対2） ・タッチラグビーの基本	自由や規律
8	1	29	月	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する①	・タッチとハーフからの球出し ・モールとラックの活用 ・スペースを意識した攻撃方法	役割 思考・判断・表現
9	2	1	木	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する②	・ラグビーW杯と日本ラグビー② ・タッチラグビーのルール整理 ・チーム編成とチーム練習	可能性 自由と規律
10	2	5	月	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する③	・競技エリア（コート図）の把握 ・チーム練習 ・練習試合（人数制限なし）	責任とサポート 偶然と努力
11	2	8	木	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する④	・チーム練習（チーム名の発表） ・練習試合（7人制） ・ルールと試合運営の確認	リーダーとフォロワー 自主や自立
12	2	19	月	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する⑤	・チーム練習 ・公式試合（予選） ・セルフジャッジへの共通理解	自由と規律 フェアプレー精神
13	2	22	木	タッチラグビーを通して ラグビーを理解する⑥＋まとめ	・チーム練習 ・公式試合（予選＋決勝） ・授業まとめ＋課題の配布	自由と規律 ノーサイド精神
予備日	2	26	月	【雨天等：体育館大アリ半面】 アメフトを体験する～大学スポーツ	・アメフトの基本（パス） ・フォーメーションとタッチゲーム	【天候が良い場合】 ・ラグビーを理解する⑦ ・公式試合 ・ビデオ分析
	2	29	木			

※7 回目の授業が、合同研究会（1／27）での公開授業である。

※本紀要の執筆時点では、11 回目の授業まで終えている。このまま天候に恵まれた場合、12～14 回目もリーグ戦（公式戦）で、計 6 試合ずつおこなえる予定である。

※予備日では、“大学からはじめるスポーツ”として「アメフト」を紹介する予定である。

② 公開授業の指導案

段階	時間	流れ	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
授業前		・本日の公開授業（土曜日午後）について連絡…これまでの授業内で説明、保護者宛て配布（1/15）、前日には教室掲示 ・本日の授業に必要な場と用具の準備…ラインを引く（昼休み）、用具のチェック（ラグビーボール29球、ホワイトボードとペン） ・授業開始前に準備を全て済ませて生徒を待つ…「開始1分前」の合図をして整列を促す		
導入	13:10	（1）集合・整列・挨拶 出席確認・体調チェック 本時の概要（目的、内容、流れ）	【授業参加の基本条件】 遅刻をしない／挨拶をする／仲間を大切にする ①トライゲーム ⇒ 1対1～2対2（数的優位を作る） ②タッチラグビー ⇒ 攻撃と守備の基本ルール	チャイムと同時に授業開始 見学者への対応（用紙など）
	13:12	（2）準備運動	教員のリードで、 ・体操＋ストレッチ ・仲間づくり＋体を温める運動	当日のコンディションを考慮 （天候や生徒のモチベなど） 導入→展開へ、勢いづける
展開①	13:20	**（3）ランニングパス** 〔水分補給〕	2人1組 → 4人～5人1組へ ・ゆっくりと走りながら ⇒ スピードを徐々に上げる ・クロスやループなど動きに変化つける、モールやラック復習 【ラグビーの授業心得】 ・ミスをしたら、まずは自分がボールに向かう ・仲間のミスを、走って戻ってカバーする	基本的なミスを防ぐ声掛け （ノッコンやスローフォワード）
展開②	13:30	**（4）トライゲーム** ・1対1 ・2対1 ・2対2（数的優位を作る）	4～5人1組×8チームで、8コートに分かれて練習 ・攻撃側がタップして動くまで、守備は止まっておく ・タッチでタックル成立（両手タッチ／押さないように） ・ステップ、スワーブ、チップキックなどの個人技術 ・数的優位を作るための技術 クロスやループ、カットインやアウト、キックなど ★タッチラグビーの局面をイメージして攻防をする ★ゴールのどこにでもトライできるので、工夫する	筑附グランド半面に合わせて 縦26歩×横19歩の8面 攻撃と守備の方向を指示 （衝突しないように注意） 具体的な動きをイメージでき るように何点か見本を示す ゲームから逆算した練習 自由な発想を引出す声掛け （話し合いを促す）
展開③	13:45	**（5）タッチラグビー** ・攻撃と守備の基本	2チームずつ向かい合い、4コートに分かれて練習 【筑附式タッチラグビーを少しずつ説明していく】 ・タッチされるとダウンボール、ハーフが球出し ・タッチした人とタッチされた人は、ハーフ以外の人 がボールをさわるまでプレーできない ・ダウンボールの位置から守備側は2m下がる ・4回の攻撃でトライを奪えない時は、攻守交代 ・ノッコンなどの反則は、相手側の攻撃権1回目 ★オフサイドポジションでプレーをしてはいけない ★セルフジャッジを基本とする	8面を2つずつくっつける 具体的な動きをイメージでき るように見本を示す 本時は勝敗にこだわるので はなく、ルール理解に励む 自己申告が基本となるので 自分を律するような声掛け
まとめ	13:55 （14:00）	（6）集合、本時のふり返り 体調チェック 次回の連絡、挨拶、解散	タッチラグビーに関して質問を聴き、共有する （基本的に、整理運動は各自でおこなうことにしている） 「タッチラグビーを通して、ラグビーを理解する①」	整列を求めず、スペースを 埋めるように集める 終わりの挨拶を大切にする
授業後		・質問を受け付け、個人練習の希望があれば付き合いたいが…（この日は難しいかも） ・場の整備と用具の片付け（ラグビーボールがグランドに落ちていないか確認） ・本時の概要や学習したポイントを簡単にまとめた用紙を教室に掲示 ＋QRコードで「ラグビーに関する豆知識」を紹介		

※雨天時には上記内容を体育館で、サイズを縮めておこなうイメージである。

※本研究会には体育教員をめざす学生も多く参加している。授業前後の教員の動きなどもわかるように指導案を作成している。

（３）高等学校・体育「研究協議」について

研究協議会の前半（60 分）は、小・中・高校の授業担当者による単元の概要や公開授業に関する説明である。後半（60 分）は、授業者 3 名による相互の意見交換を参加者に聴いていただいた後に、筑波大学の宮﨑明世先生（体育科教育）の進行で、前半部分の内容も含めて全体での協議・質疑応答の流れとなっていた。

①高校の発表（スライドの主な内容）

※発表直後にいただいた小学校先生の「涙が出るくらい感動しました。私も本当にラグビーが好きです。今日は来てよかったなと思いました。色々語り合いたいです。」の感想は、私の緊張や疲れを吹き飛ばしてくれた励ましの言葉で、忘れることはないと思う。

②研究協議会（後半）のふり返り

研究協議会の後半は、小・中・高校の担当者が互いの公開授業を観察して、自分の校種と比較して感じた共通点や相違点などを率直に指摘し合い、その後、参加者からの質疑に答える形で協議は進んでいった。三校が絡む内容が大半であるため本紀要での報告は省き（筑波大学附属学校教育局 HP トピックス内にある合同研究会の報告をご覧ください）、ここでは高校のラグビー授業に関連した質疑応答のみをいくつか紹介しておく。

【質問（参加者）】

小学校でもタグラグビーをよくするが、いちばん苦労しているのが、ボールを持った生徒が後ろに下がってしまうような、ラグビー経験者からするとあまり考えられないプレーをどのように修正するか、ということです。「前に出てタグを取られてもよい」と子どもたちに言ってもなかなか上手く伝わらない。先生も苦労されている部分だと思うが、「タッチされてもよいので前に進む」ことを生徒に理解させるための指導法や言葉かけなどがあれば教えてほしい。

↓

【回答（授業者）】

私としては「後ろに下がってもよい」と考えている。ラグビーの7人制だと、わざと後ろに下がってスペースを作ることもあるので、そのようなプレーを否定しない。質問に答えるとすれば、一つは、ランパスでの声掛けを工夫している。「ランパスでミスをしない方法はパスをしないことで、ボールを持って、パスをせずに、おもいきり自分の好きなコースで“前へ前へ”走る。周りが追いついて“パスをくれ”の指示が聞こえたらたらパスをしなさい」と伝えている。そのような声のかけ方で生徒の意識をくすぐり、ボールを前へ進めるようにしている。

※ここでは答えることができなかったが、同じ位置から一方向に“ヨーイドン”で競争しながら、1 人は逃げ 1 人はタグを取る（できるだけ早い時間でトライゾーンへ行く）「追いかけっこ 1 対 1」の練習などもよいと思う。

【質問（参加者）】

本日のラグビー授業のタッチラグビーの基本練習を観ていて思ったが、すごく上手だと思った。特に、1人がタッチされてダウンボールすると、次の生徒が直ぐに寄ってきてハーフ役で球を拾い、次の生徒にパスをする。そのテンポの良さに驚いた。全員ができるわけではないが、多くの生徒ができていた。何か指導上のコツなどはあれば教えてほしい。

↓

【回答（授業者）】

このクラスにはラグビー同好会の生徒が4～5人いるので、上手に見えたのかもしれない。でも、ラグビー同好会の生徒たちが周囲に影響を与えているのは確かだと思う。良い意味でも悪い意味でも。ラグビーを少しでも経験していると“ラグビーとはこうあるべきだ”という感じをすぐに出してしまうので。でも、授業はじめのランパスで見ていただいたように横一列に並んだランパスだけでなく、モールやラックを作るようなランパスを重視している。走っている一人目が相手につかまった（タッチされた）想定で止まって後ろを向く、そこに味方の二人目がボールをもぎ取りに行く（リップする）、そして味方の三人目がハーフ役でボールを出して、離れて後ろあたりに待機しているバックス役にボールをパスする。このような流れを本年度のランパスで取り入れているので、球出しの形が身に沁みついているのかもしれない。うまくできている部分だと思う。

③合同研究会のふり返り〔参加者への事後アンケートより〕

アンケートを Google フォームか用紙に回答することができる形でお願いした。その中の項目「高校の公開授業や研究協議に関する意見や感想など～授業者へのメッセージ～」について次項に記す。本当にたくさんの温かいコメントをいただいた。素直に受け止めて、感謝し、今後の実践と研究のエネルギーにしたい。

・流れをもってスムーズに活動する。それが思考の時間を与えることにもなるのだと考える機会となりました。

・最初の元気な挨拶や、全員が一生懸命に取り組む様子、先生のご指導を見て、とても学びがありました。

・本質的な学びをさせたいという先生の思いを大事にしながらも、安全への配慮としてゲームと切り離してタックルなどの練習をするというのが素敵だと感じました。

・高等学校の授業を参観するのが初めてであったので、生徒たちの自立した動きや学習を目の当たりにして大変勉強になった。また、ラグビーという種目を本来の規則に近い形であるにも関わらず、生徒たちが安心して学習できていたことが勉強になった。また、協議会の中で生徒指導の視点との関連を示されていて、学校現場に戻った時に使って見たいと思った。

・先生の熱いラグビーへの想いと生徒全員が身体を積極的に動かしていることが印象的でした。

・ラグビーのもつ機能的な自由と規律について、深く考えさせられました。種目の持つ、自由と規律を味わうこと、そしてそれを内面化していく教育の可能性を感じました。

・高校生のラグビーの実践を、初めて見聞きしました。貴重な機会でした。授業や協議会から、先生のお人柄の温かさを強く感じました。先生の熱い想いが、子どもたちにも伝わっていたように感じます。授業後に生徒２人が『ラグビー楽しくなってきたね！好きになってきた！！』と話していたのが印象的でした。先生から、とても大きな刺激を受けました。ありがとうございました。

・ラグビーについて自分はあまり詳しくなかったのですが、先生の授業を拝見し、とても面白く、ルール上どの生徒もボールに関わるので、ゴール型の教材としてもっと積極的に取り入れていきたいと思いました。自由と規律のスポーツであること、そして最後にそれらを踏まえて、体育の授業として自由と規律についてのレポートを書かせるという取り組みは本当に素晴らしいと思いました。スポーツや授業を通して本当に生徒たちに学んでほしいのはこういうことだと思っていたので、こうした授業を自分も取り入れていきたいです。

・先生の熱い思いを生徒も受け止め、楽しんでいるのが印象的でした。２対２の駆け引きなど、思い切り楽しんでいる様子で、生徒たちのラグビーに対するワクワク感が伝わってきました。

・高校段階での指導のゴールを明確に持ち、指導をする「ラグビー」としての完成形へ向け単元計画をしている点がとても勉強になりました。生徒達も、生き生きと活動しており、「ラグビー」の楽しさを味わっている姿が印象的でした。本日はありがとうございました。

・ラグビーの授業を参観したのは初めてでした。完成形に近づけていくための仕組みとして、座学を単元計画に配置しながら生徒に体験させ、考えさせる工夫が面白いと思いました。最後のレポートで生徒はどんなことを書いてくるのか興味が湧きました。

・先生の熱意、そして、生徒に対する感謝が伝わるからこそ、全員が意欲的に取り組めるのだろうなと思いました。自由が規律をこえるときと言う言葉がとても印象にのこり、これからの自分の授業でも考えていきたいと思いました。

・私自身も球技の単元でラグビーの授業を実施したことがあったので、そのことを思い出しながら授業を拝見させていただきました。協議の中で先生が「ラグビーは後ろに下がって良い」と発言されたことに対し、「ああ！確かに！」と思いました。私はラグビーは「前へ」という意識が強かったので、改めて気付かされました。協議の中でご質問ができなかったのですが、「評価」はどのようにされているのかと思いました。もし可能であればご回答いただけると幸いです。よろしくお願いします。

・タックルやスクラム等危険なプレーは「切り取った体験」をさせるという発想がなかったので、他の種目でも取り入れていきたいと思います。また、先生が保健体育「ラグビー」を通して何を伝えたいのか熱い気持ちを感じることができました。

・授業を参観させていただき、ありがとうございました。高校の授業を見る機会は初めてだったので、とても貴重な経験でした。生徒たちの温かい雰囲気を見ていると、小学校でもこのように、温かく全員が笑顔になれる授業をしたいと思いました。

【本研究会全体を通したコメントから抜粋】

・「自由と規律」と聞いた時に私自身イメージがつきませんでした。しかし今回、学習規律などが基盤となり、そこに生徒が選択していく自由があるという捉え方や、セルフジャッジという自由から合意形成を図ることで規律が生まれるという捉え方ができることなど、様々な考えに触れることができました。また、小学校から高等学校までの授業を一度に見ることは貴重な経験となりました。ありがとうございました。

※本年度の合同研究会を終えて、対面での研究会が貴重だと改めて感じることができた。

６．おわりに

コロナ禍では、どのような体育授業を実施することができるのか教科内で曜日も時間も関係なく話し合うことがあった。そして、ボールを使った運動をするのであれば、授業と授業の合間に消毒液を入れたバケツで 1 球ずつボールを洗い、拭いて、使用したことを覚えている。ラグビーボールでキャッチボールをしたり、砂山を作りラグビーボールを立ててプレースキックの練習をペアでしたり、そこまでは良いが、タッチラグビーのタッチは接触プレーなのでマスクを外すなら NG で…など、チームスポーツを楽しむようになるまでには、かなりの段階を踏まなければならなかった。

昨年度（2022 年度）もラグビーの授業を担当しているが、コロナ禍の制約を引きずり“表面的なラグビーの楽しさを伝えているだけ”のような気がして、授業を運営しながら、なんだか生徒たちに申し訳ない気持ちになった。本年度（2023 年度）の GW 明けに新型コロナが 5 類に引き下げられ、始めはゆっくりだったが、急にスピードを上げて一気にコロナ前に戻ってきているように感じた。そのような中で、本年度の合同研究会（2024 年 1 月 27 日）の高校の授業担当者となることが決まった。種目は「ラグビー」である。10 月から始まる 2 年生男子のラグビー授業に向けて、教材研究がスタートした。

「ラグビーは体格やプレースタイルだけでなくルール自体も大きく変わってきている」「現代ラグビーでは…」などの言葉をよく聴き、ラグビーが変化していることは感じていたが、具体的に何がどう変わっているのかを理解できてはいなかった。ラグビーに関する書籍を読み漁り、文京ラグビースクールの練習を見学させていただて、2023 ラグビーW 杯フランス大会を専門チャンネルで見て、国立競技場や横浜国際総合競技場・秩父宮・花園・熊谷のラグビー場に通い、各国代表レベルからちびっこラグビー、女子ラグビーなどにもふれる機会を得た。もちろん YouTube のチェックも外せない。

にわか知識なので「最近のラグビーを理解できた」などとはとてもとても言えないが、10 月から始まるラグビーの授業は待ってくれない。授業者である私が考えた「ラグビーに必要な基本的な知識や技術」「ゲームの中でよく見た／出現した（ように思う）プレーや戦術」などを授業に入れ込むことにした。体育授業で球技種目を取り扱う際に重視している点は、「筑附式（松本 ver.）タッチラグビーの作成」の項で述べた通りである。ゲームから逆算した授業を展開する上で、目の前の生徒たちを想定して修正を加えた「オリジナル・ルール」がきっちりと有ることは大切である。

本年度に作成した「タッチラグビー」をたたき台にして、これからの数年（？）は現在の方向性でラグビー授業を運営していくことになるが、毎年、生徒は入れ替わっていく。“本校生徒のユニークな発想”を見逃すことなく取り入れて、生徒たちと一緒に「筑附のラグビー授業」を作っていきたい。授業者として、現段階で既にいくつかのルールが気になっている。本年度のラグビー授業全体を通しての課題や今後に挑戦してみたい取り組みなども含め、次項にまとめておく。

・ルールの中にある「ラック」がゲーム中に出現することはほぼ無かった。タッチされた後のタップをラックと捉えることができるのかも知れないが、やはり、これとは別に「ラック」というプレーを教えたい。例えば、「ゴール前 5m 以内ではモールは禁止だがラックなら使ってもよい」などのルール変更はどうだろうか。

・ノックオンやスローフォワードの反則後は相手チームの「タップ」で再開となる。本来のルールでは「スクラム」を組むことになる。“スクラムは組ませない”の考えに変わりはないが、「3 人ずつが向かい合ってスクラムらしきことをする」ことができれば、その他のスペースの人数が減り、サインプレーなど多様な攻撃が生まれるかもしれない。

・ルールの中にある「重たい反則（オフサイドや危険なタッチなど）」の場合は、反則された側は 2 つの攻撃のいずれかを選択できる。が、「プレースキック」の選択をしたチームは無かった。短いゲーム時間の中でプレーを止めることを嫌がる気持ちもわかる。これについては、リーグ戦をさらに重ねて勝敗にこだわる状況を観察してから判断したい。

・座学でも「ラグビー憲章（品位・情熱・結束・規律・尊重）」にはふれていない。言葉を説明するのは簡単だが、体育授業のラグビーで、どのように学ばせることができるのか考えていきたい。また、私自身がラグビーの「プレーの原則」への理解が浅く、「筑附式タッチラグビー」との関係を整理しきれていないことも課題である。

・授業運営では、学級閉鎖で公式戦が 1 日（2 試合ずつ）しかできなかった。4 チームあるので、せめて総当たりの記録が残るように練習試合を読み替えるなどの工夫をしたい。

・タッチラグビーのゲームに備えて 2 面分のラインを引くのは時間がかかる。時間をかければラインは引けるが、もっとシンプルで上手なグランド設営の方法はないだろうか。

・本年度の 2 年生のプレー映像を切り取って作成した「写真を用いたゲーム戦術の解説」は、もっと分析して種類を増やしたい。毎年増やして次年度の授業で活用していく。

・教材研究をする中で、「生徒に語りたい 3 分間のラグビー豆知識」のストックがかなりできた。〔試合前のノーサイド、ラグビーと南アフリカ、ミスターラグビー、ラグビーのジャージを洗う、千田左、日本のラグビー校、リーチマイケルとは、…など〕授業の中だけでは処理しきれない。私のこだわりである“授業の熱を冷まさない、授業に熱を持ってくる”仕掛けの 1 つとして、動画配信に挑戦してみてもよい。

・ラグビー強豪校の先生方をはじめとして様々なチーム作りの方法があることを勉強させていただいた。また、ラグビー経験の有無に関わらず、多くの人々がラグビーを好み、支えていることを実感することができた。私も引き続き、授業を通して貢献していきたい。

謝 辞

本年度のラグビー授業への取り組みでは、ルールの作成において本校数学科の山田研也教諭（本校ラグビー同好会顧問、文京ラグビースクール副理事長、日本ラグビーフットボール協会公認 A 級コーチ）にアドバイスをいただきました。体育授業にも何度か参加して生徒と一緒にラグビーをしていただきました。また、文京ラグビースクールにおいても、齋藤守弘 理事長（校長）やコーチのみなさまのご理解を得て、多様な研修の機会をいただきました。ありがとうございました。

引用・参考文献

1）中塚義実・貴志泉・鮫島元成・征矢範子・藤生栄一郎、体育実技「ラグビー」の可能性と課題－筑波大学附属高校の実践を通して考える－、筑波大学附属高等学校研究紀要、第 55 巻、2014、pp.27-57

2）岩田靖、ボール運動の教材を創る－ゲームの魅力をクローズアップする授業づくりの探究－、大修館書店、2016，pp.28-33

3）Jsports、http://www.jsports.co.jp/rugby/、「ルール解説・ポジション解説」、（参照：2024.2.19）

4）清宮克幸、ぐんぐんうまくなるラグビー、ベースボールマガジン社、2008、pp.9

5）岩出雅之、ラグビー 基本と上達ドリル、実業之日本社、2018、pp.2-5

6）筑波大学附属学校教育 HP、https://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp、トピックス「筑波大学四校研 体育・保健体育科 合同研究会」、過去の資料一覧

7）「月刊生徒指導」編集部、生徒指導提要 改訂版 全文と解説、学事出版、2023

体育（2年男子）ラグビー

2023年11月

TSUKUBA RUGBY

M‘ League

チーム登録用紙

～ ラグビーを語れるようになる／ラグビーで語れるようになる ～

チーム名	番号

※意味の無いチーム名や下品なチーム名はNG！

組	番	氏名	選手紹介（ひとことコメント／地域紹介もあります）
		HC	
		CP	
		CP	

【今後の授業予定】

① 12月1日（金）　② 12月5日（火）　… チーム練習＆練習試合（ルール理解）

③ 12月8日（金）　④ 12月12日（火）　… 公式戦

※本用紙は、本日中に提出すること

TSUKUBA RUGBY

M‘ League

月　　日　　曜日　　限　　試合結果

花園ラグビー場（校舎側）　　秩父宮ラグビー場（公園側）

第１試合						
チーム番号	VS				VS	
得点						

第２試合						
	VS				VS	

第３試合						
	VS				VS	

※ラグビー「Mリーグ」は、２試合を基本とする。

第１９回　筑波大学附属小・中・高等学校
体育・保健体育科合同研究会

ゴール型 － 運動特性を学びながら、体育を通して“自由と規律”を考える －

筑波大学大塚地区にある附属小・中・高等学校では、大学を含めた「四校研」を教科別に組織しております。体育・保健体育科では 2005（平成 17）年度より、共通する領域・種目を設定し「小・中・高の授業の一貫性」をテーマに合同研究会を開催してきました。しかし、2020（令和 2）年度からの 3 年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公開授業ができず、「コロナ禍での体育・保健体育科の実践」「水泳」「ベースボール型」をテーマにオンラインでの研究会となりました。

本年度は、4 年ぶりに対面で研究会を開催いたします。今回はすべての校種において、ゴール型の領域を展開することにしました。まずは、発達段階に応じたゴール型の運動特性について、どのような内容をどのように学ばせるかを提案します。ゴール型ゲームの面白さを全ての児童・生徒が実感しながら、それぞれの校種において学ばせる内容の共通点や相違点について、授業の中の子どもたちの姿を通して一緒に考えていきたいと思います。また、学習内容をどのように学ぶのか、体育授業から何を学ぶのかを「自由と規律」の視点で考察していきます。自由と規律の視点は、学校で体育を教える価値を考えることにつながり、児童・生徒が豊かな学び手となって、さらに豊かなスポーツライフを送る上でも重要であると考えました。

お忙しい中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参会いただければ幸いです。

記

1．日　時　　2024 年（令和 6 年）1 月 27 日（土）　9：30 受付開始

2．会　場　　筑波大学附属中学校・高等学校
〒112-0012　東京都文京区大塚 1-9-1

3．主　催　　筑波大学附属学校教育局、筑波大学大塚地区「四校研」体育・保健体育科

4．内　容（予定）

○公開授業：10：10～13：50

小学校	アルティメット	齋藤 直人
中学校	サッカー	秋山 和輝
高等学校	ラグビー	松本 英樹

○研究協議：14：20～16：30
司会進行：　宮崎 明世（筑波大学）
授業者　：　齋藤 直人、秋山 和輝、松本 英樹

5．参加費　一般 500 円（資料代）
＜別途資料希望は 1 部 500 円＞
学生 無料

6．日程

9:30~10:00	10:10 ~10:50	11:10 ~ 12:00	13:00 ~ 13:50	14:20 ~ 16:30
受付	趣旨・諸連絡	小学校 公開授業（於グラウンド）	休憩	中学校 公開授業（於グラウンド）	昼食	高等学校 公開授業（於グラウンド）	休憩	研究協議（桐陰会館）

※昼食については各自でご準備いただくか、近くの飲食店でお取りいただくようお願いします。
※終了後は懇親会を予定しております。どなたでも参加できますのでご予定ください。

7．参加申し込みについて
事前申込が必要となります。※申込締切 1 月 25 日（木）15：00
申込用 Google Form アドレス　https://forms.gle/BUuJHxATEKoKEg3F9

事前申し込み
QR コード

8．撮影について
ビデオやカメラ、携帯電話を用いての撮影や録音についてはご遠慮願います。

地下鉄でお越しの方
東京メトロ 丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩10分
東京メトロ 有楽町線 護国寺駅下車 5番出口 徒歩8分

お問い合わせ先
〒112-0012　東京都文京区大塚 1-9-1
筑波大学附属高等学校　保健体育科＜担当窓口：松本＞
E-mail　：hmatsumo@sgh-tsukuba.org　TEL：03-3941-7176（高校代表）